



学校だより

10月号

令和5年9月29日
横浜市立能見台南小学校



← 学校ホームページ
QRコード

変わるオリンピック

校長 榊原 一紀

夏休みが終わり、一カ月が経ちましたが、暑い日が続きます。熱中症予防のために校庭に出される三角コーンの数が1つの日が多くなってきました。2つ出ているときは、外の活動はすべて中止。1つのときは、激しい運動は中止という約束があります。9月の中旬を過ぎても2つの日が多いことが、今年の暑さの凄さを感じます。給食の調理室で室温が42℃という日があり、びっくりしました。そんな中、おいしい給食を作ってください調理員の方には頭が下がります。

10月28日に予定されている南小オリンピック（運動会）に向けた準備が本格的に始まります。今年度より、熱中症の予防と学級作りという面から、春開催から秋開催へ変更しました。他にも、ソーラン節だけだった団体演技をコロナ禍前のように全学年で行います。ただ、すべてをコロナ禍前に戻すわけではなく、競技や演技を午前中に行い閉会式を午後に行うというスマートな運営は今年度も続けていきます。そのため競技の順番や低・中・高のブロックで演技を行うなどの工夫をしました。様々に変化することで心配になることもあるかもしれませんが、ご理解をいただきたいと考えています。

スマートな運営を進める理由には、今話題となっている教職員の働き方改革の面もありますが、児童数の減少も関係しています。6年前（平成29年）の本校の児童数は約750名でした。私が赴任してきた2年前（令和3年）は約500名、今年度は約400名、そして、3年後（令和8年）の児童数の試算は約300名、そして6年後（令和11年）は約200名とされています。本校では急激な児童数の減少に対応することが急務となっています。例えば、これまでオリンピックのリレーと応援団の担当の先生が各学年から一人ずつ割り当てられていました。多くの学年が2クラスとなった現在、そのようなことをすると、休み時間にリレーや応援団に入っていない児童と関わる先生がいなくなります。学年にクラスが3とか4とかあったときから、方法を変えていくことで対応していかないといけないのです。

その反面で、期待することもあります。人数が少なくなったことでこれまで6年生だけで行っていたソーラン節を、高学年の5,6年生で行うこととしました。それによって6年生から5年生に子ども達同士でつないでいく、能見台南のソーラン節の伝統が生まれると考えています。カッコいい姿を何年も引き継いでいってほしいと思います。

最後に、大きな変更点として、9時半ごろから終了まで東門を閉鎖し出入りを1か所とします。PTAの協力で警備員を2人配置していただきました。そのうち1人を正門に常駐することで安全面の強化を図ります。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。そのほか運動会に関しては9月の懇談会で配付したお手紙をご確認ください。